

## 教科目名 地域計画学 (Regional Planning)

専攻名・学年 : 機械・環境システム工学専攻 2 年 (教育プログラム 第 4 学年 ○科目)

単位数など : 選択 2 単位 (前期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 亀野 辰三

授業の概要			
本講義では、国際的な視野からわが国の地域や都市が抱えている様々な課題等を認識し、それらの解決策を自ら考え提案できる人材を育成することを目標としている。そのために、授業の前半では、地域計画をめぐる時代の潮流、戦後の地域計画の歴史を学習する。授業の後半は、今日の地域・都市計画で大きな問題となっている中心市街地の衰退問題を取り上げ、その原因や各地で実施されている対策を学習したい。授業では、できるだけ身近な事例やスライド・新聞記事を多用して受講生の興味や関心を惹起したいと考えている。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(E1), JABEE 目標(d1)(g)	
(1) 地域計画及び都市計画の基礎知識が理解できる。(定期試験)			
(2) 現在の都市・地域が抱える様々な課題が理解できる。(定期試験)			
(3) 中心市街地問題について問題を正しく認識し、解決策を自ら考えることができる。(レポート)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	1. 地域計画概説	○地域計画の全体像を理解する。	【理解の度合い】
2-4	2. 地域計画をめぐる時代の潮流	○時代の潮流(少子高齢化・環境エネルギー・国際化)を理解する。	
5	2.1 時代の潮流		
6,7	2.2 人口減少社会	○将来人口の予測を一次式とロジスティック曲線を用いて分析できる。	
	2.3 人口調査と将来人口の予測		
	3. 地域計画の歴史	○戦後から現在に至る地域計画を学習する。	
	3.1 戦後の地域計画	○全国総合開発計画を理解できる。	
	3.2 全国総合開発計画		
8	前期中間試験		
9	前期中間試験の解答と解説	○わからなかった部分を理解する。	
10	4. 中心市街地の活性化	○中心市街地活性化のための三つの法律を学習する。	
	4.1 まちづくり三法	○今日主流となっているコンパクトシティについて学ぶ。	
11,12	4.2 コンパクトシティ	○市街地再開発事業の仕組みを理解する。	
	4.3 市街地再開発事業	○最近、国が導入を進めている立地適正化計画について学ぶ。	
13	4.4 立地適正化計画	○中心市街地の活性化についてレポートにまとめる。	
14	4.5 まとめ		
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説	○わからなかった部分を理解する。	
履修上の注意	地域・都市問題に興味を持つ学生の受講を望む。 適宜プリントを配布するのでファイルを用意しておくこと。また、地域計画・都市計画に関する演習問題を課すので、日頃から世界や日本の地域づくりの動向に関心を持つこと。		【総合達成度】
教科書	使用しない		
参考図書	日本まちづくり協会編、『地域計画』, 森北出版		
自学上の注意	演習問題や宿題を多く課すので、学生は教科書、参考書、インターネット、図書館学習等を通じて自ら調べて提出すること。		
関連科目	交通システム工学, 環境計画 (C 科), 都市計画 (C 科), 道路交通工学 (C 科)		
総合評価	達成目標の(1)~(3)について2回の定期試験とレポートで評価する。 総合評価=0.8×(2回の定期試験の平均点)+0.2×(レポート点) 総合評価が60点以上を合格とする。再試験は、総合評価が60点に満たない者に対して実施する。		【総合評価】 点